5 記入のポイント 保存活用計画書(4/4)

4　景観を活かしたまちづくりへの展開に関する事項

□景観を活かしたまちづくり活動

［現状］

○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○

［課題］

○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○

［景観を活かしたまちづくり活動のアイデア］

景観を活かしたまちづくり活動について

景観を保全、育成、創造していくためには、人々の社会活動や経済活動がうまく循環していくことが大事です。

景観を活かした（活用した）まちづくりとは、景観資源を中心として取り組む各種まちづくり活動として、例えば、次のような活動をいいます。

- 町家や歴史遺産など歴史的な建物での、演奏会、物品販売、体験教室
- 都市農村交流による耕作放棄地の耕作や交流イベント
- 美しい景観が維持されている棚田米を使った地酒づくり
- 地域景観を題材とした景観教育や学習会

提案者ですぐに取り組めることだけではなく、実現のためには行政をはじめ他の団体の協力が必要なこともありますが、景観を活かしたアイデアや実現のための方針をまとめてみましょう。

参考となる基本情報や必要事項をまとめてください

5　その他必要な事項

□提案団体（提案者）の概要（提案者が、行政以外であれば記載してください。）

※団体の場合は、組織名称、設立日、所在地、会員数、設立目的、主な実施事業、景観資産の登録範囲と団体の活動の関係など

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

□提案までの検討経過

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

□（その他、必要事項）

point 11
参考となる資料（パンフレット、新聞記事など）があれば添付してください

保存活用計画書チェックポイント ❹

まちづくりの効果と事例

「景観づくり」を契機とした「まちづくり」の効果

地域固有の自然、歴史、文化に根ざした景観づくりとともに、その景観を活かしたまちづくりを進めることにより、次の効果が期待できます。

1. 地域のアイデンティティーやコミュニティーの再生

景観づくり活動は、そのプロセスにおいてまちの歴史や文化を再認識することから、地域共有の価値観や個性（アイデンティティー）の形成が促されます。また、地域への誇りや愛情を育て、地域の絆（コミュニティー）の再生が図られます。

2. 地域経済の活性化

風土に根ざした魅力あるまちなみや建築物の保全により地域の魅力が高まれば、土地や建物に対して新たな価値をもたらします。また、商業地のにぎわいづくり、歴史的まちなみの保全、農山村における棚田保全など観光資源としての活用を図ることにより地域経済の活性化が期待できます。

3. 環境共生型社会の実現

地域固有の景観づくりとして、歴史的建造物や樹木、里山等の地域資源を保存、活用していくことにより、持続的な環境共生型の社会への移行が期待されます。

府内の事例　ー景観を活かしたまちづくりへー

住民主体の観光まちづくり

「住んでよし、訪れてよし」のまち

文珠まちづくり協議会 ＜宮津市＞

概　要

◆ 府道宮津養父線の歩道整備を機に、天橋立のお膝元に位置する観光地にふさわしい魅力あるまちづくりに向けて、平成 15 年に文珠まちづくり協議会（会員 13 人）を設置し、景観問題、歩道問題、空家対策や、地域住民の啓発などに取り組んでいる。

◆ 平成 19 年 1 月に、京都造形芸術大学とまちづくりに関する協定を締結し、50 年、100 年後の文珠地区のまちを見据えたまちづくり構想を策定し、安全で美しいまちの実現と、観光地「文珠」としての魅力を高めていく予定です。

都市農村交流によるまちづくり

みんなで守ろう心のふるさと

福知山市毛原自治会

概　要

◆ 福知山市の旧大江町に位置する毛原地区は、山間部の斜面地に大小の棚田約 600 枚が連なる美しい農村集落。しかし、高齢化による労働力の不足などにより不耕作地が増加し、景観が悪化。

◆ 平成9年から「棚田農業体験ツアー」、平成 10 年から「棚田オーナー制度」、平成 19 年には企業と連携した「里地里山保全事業」など、都市農村交流による景観保全とまちづくりを精力的に実施。

◆ 現在では、田植えや収穫時期には多くのカメラ愛好家が訪れるなど、良好な棚田景観として多くのファンを増やしています。

歴史遺産を活用したまちづくり

ノスタルジックな煉瓦のまち

NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴 ＜舞鶴市＞

概　要

◆ 舞鶴市の東地区に残る近代化遺産「北吸赤れんが倉庫群」を中心に、20 年にわたり、市民と行政の協働によって「赤れんがを活かしたまちづくり」が進められてきた。ライトアップをはじめ、毎年夏の「赤煉瓦サマージャズ祭」や秋の「赤れんがフェスタ in 舞鶴」など、「赤れんが」をテーマにした各種イベントが、多くの市民参画や企業の協力のもと開催されており、「赤れんが」をキーワードとしたまちづくりの意識や景観保全意識が定着してきている。

また、倉庫群 12 棟のうち、3 棟は「舞鶴市立赤れんが博物館」、「舞鶴市政記念館」、「まいづる智恵蔵」として整備され、その内 2 棟の指定管理を赤煉瓦倶楽部で行っている。